

子どもたちの思い出づくりと地域への情報発信

校区 人口が多いだけに、世代間の「絆づくり」には、共通の思い出づくりのための仕掛けが欠かせません。帯山校区自治協議会とまちづくり委員会が主催する「帯山夏祭り」では、子どもたちの思い出になるようにと、DVDを作成しています。DVD作成に携わっているのが、社会福祉協議会の浅田興司会長です。浅田さんは、夏祭りのほかにも、地藏まつりやどんどやの動画を作成。帯山校区のホームページで公開しています。「子どもたちの思い出をつくることも、私たち大人の役割です。夏祭りだけでなく、どんどやや地藏まつりも、帯山校区で暮らした子どもたちの思い出として記録していきたい。校区のホームページも帯山らしい特長を盛り込んで、地域のひとたちに発信していきます」と話してくれました。

帯山校区では、町内自治会をはじめ様々な地域の団体がホームページをもち、積極的な情報発信を行っている



1 地域の高齢者の元気の源、地域コミュニティセンターでの文化祭。幅広い年代が参加し、日ごろの練習の成果を発表する

2 3 新旧住民の交流の場でもある帯山夏祭り。周辺の商店や校区の病院からの参加もあり、校区住民が一つになる機会となっている



帯山校区自治協議会の小島知昭会長

帯山校区 (平成25年4月現在)
人口計: 14,664人
世帯数: 6,697世帯
町内自治会数: 7



町内自治会が主催する地藏まつり。子ども神輿が繰り出し、地域の安全を願うまつりになっている

地域密着で見守る 校区の安全安心

づくりにしてきました。

第3町内自治会の澤村英一会長も「帯山小学校を中心にPTAのみなさんが、大変協力的に活動していただいています。これからも、子どもたちを中心にした防犯活動には力を尽くしたい」と話します。

防犯 ・防災活動の大きな役割を担っているのが、地域の防犯協会と各町内自治会を中心に行われている自主防犯パトロールです。始まったのは平成17年末。1つの町内から始まり、現在は4つの町内で、週にのべ100人もの人が校区を見守っています。昼間のパトロールは、小学校低学年の児童が下校する午後3時頃に行われ、同時に一人暮らしの高齢者の安否確認も実施しています。

パトロールのとりまとめを行っているのが帯山校区防犯協会の木下新(あらた)会長です。「各町内がそれぞれのやり方でやっており、ほぼ毎日実施している町内もあります。地域の安全は暮らしの基本。自治会主体という地域に密着した人たちが実施することで、継続する活動になつていくんです」。平成22年には犯罪のおきにくい校区として表彰され、犯罪認知件数も実施前が200件以上だったのに対し、平成25年は100件以下と、確実な実績につながっています。「表彰され、実績も出たことで、やるわけにはいかないという気持ちができ、パトロールを続ける力にもなっています」と木下さん。年末には、子ども会、婦人会、老人会なども加わり、幅広い世代が参加する防犯活動も展開され、地域の安全をみんなで守る機運が校区全体に広がっています。